

馬の資料館

十勝の馬と人の歴史に触れ、
ばんえい競馬のルーツを知る

馬産王国・十勝の 歴史を伝える

「馬の資料館」は、十勝開拓のために人と馬がともに働いた時代の歴史資料を収集し、後世に語り継ぐため平成二年に開館。十勝農業協同組合連合会が所有し、とちちむらによって運営されています。



かつて十勝は「馬産王国」と称された時代がありました。明治初期、本州から馬を導入し、人と馬が力を合わせて農作業、交通、運搬を担ったことから十勝の歴史が始まります。こうした歴史を伝えるべく、館内には財団法人地方競馬全国協会をはじめ、百を超える個人・団体から提供された資料が展示されています。

本館一階には、馬を使った畑起こし（馬耕）のレプリカなどが展示され、二階にはばんえい競馬の成り立ちをはじめ、十勝の馬に関する歴史資料が集められています。また別館には、馬が動力の中心だった時代の農機具や馬そりも展示されています。

競馬場入口正面にあるため、レースが始まる前に立ち寄る観光客も多く、十勝の馬文化の発信地となっています。

ばんえいギャラリー・資料館 ばんえいコレクションが並ぶ小さなミュージアム

平成26年には帯広競馬場のスタンド1階南側、休憩コーナーの奥に「ばんえいギャラリー」を設置。当初はばんえい写真展などを開催していましたが、現在は写真展示のみならず、資料館としてさまざまな資料を常設展示しています。

歴史資料や関連書籍、歴代名馬の写真、ばんえいオリジナルグッズ、ばんえいがテーマとなった映画やテレビドラマの媒体資料、制作記録など、展示内容は多岐にわたり、壁面には、ばんえい関連作品の出演者や帯広競馬場を訪れた著名人の色紙も。スペースは小さいながら充実したコレクションで、訪れたファンの目を楽しませています。



テレビドラマ「大地のファンファーレ」のポスターや撮影時の写真なども展示。



ばんえいオリジナルグッズを集めたコーナーも。



馬の資料館

開館時間／10:00～16:00（年中無休）
入館料／無料